

幼児期に多様な動きが経験できる 運動遊びの提供

学校名 尚志緑ヶ丘幼稚園・安積保育所（福島県）
全校幼児数 143名（男児74名 女児69名）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 024（924）2758
メールアドレス soukyo@city.koriyama.fukushima.jp

1 研究のねらい

子供が楽しみながら体を動かし、多様な動きの経験が可能な楽しい運動遊びを提供することにより、基本的な動きの習得及び洗練化を図る。

2 研究の概要

- 幼児期の運動実践プログラムを策定し、提供することにより子供が夢中になって楽しくできる運動遊びを実践する。
- 幼児の運動状況に関する実態調査（身体活動量、基本的な動作の獲得状況）を実施し、さらに、保護者の意識の変容を検証する。

○実践プログラムの紹介

☑ 多様な動きを経験できる遊びのプログラムの提供

「郡山市幼児期運動指針実践調査研究委員会」を設置し、本市の現状等を考慮した、子供たちが夢中になって楽しくできる運動遊びである「幼児期運動実践プログラム」を策定し、各施設に提供する。

【郡山市版 幼児期運動実践プログラム】

幼児期に経験すべき動き「36の基本的な動き」に着目した運動実践プログラムを6つの領域にまとめた。

- ① 体のバランスをとる運動遊び
- ② 体を移動する運動遊び
- ③ 用具を操作する運動遊び
- ④ 力試しの運動遊び
- ⑤ 基本的な動きを組み合わせた運動遊び
- ⑥ 家庭でもできる運動遊び



○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 運動遊びを実践するときは、複数の指導者を配置するとともに、用具等の安全を確認し実施した。
- 2 「文句をいわれない安心」「けがをしない安全」などのためにトラブルや危険の予測をしながら実施した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 運動実践プログラムを提示することにより、保育士・教諭が自信を持って取り組むことができた。
- 2 指導のポイントを示すことにより、保育士・教諭の資質向上が見られた。
- 3 家庭との連携を踏まえた降園・降所後や休日における遊びの充実を図ることが今後の課題である。

○ 研究内容

【体のバランスをとる運動遊び】安積保育所

「36の基本の動き」片足立ちを親子で競争！



【体を移動する運動遊び】安積保育所

「36の基本の動き」手をつないだ上や股下を潜り抜け移動



【力試しの運動遊び】尚志緑ヶ丘幼稚園

プログラム名「うつぶせ大根抜き」で友だちと腕を組む



【家庭でもできる運動遊び】尚志緑ヶ丘幼稚園

プログラム名「大木とリス」で運動遊びを楽しむ親子

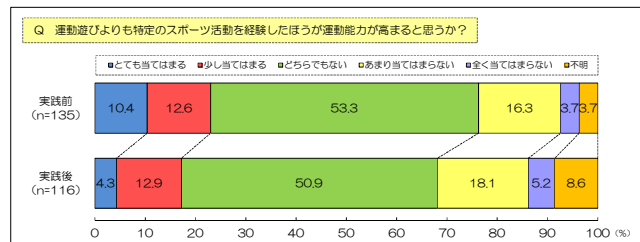


【保護者の意識に関する調査結果】

子供の遊びや運動・スポーツに関する意識の調査を年2回実施し、意識の変容の検証を行った。

保護者の子供の遊びや運動・スポーツに関する意識として、「遊びや運動・スポーツに期待する効果」や「子どもの遊びや運動・スポーツに対する考え方」、「子どもの運動能力向上に関する考え方」などを調査した。

「運動遊びよりも特定のスポーツ活動を経験したほうが運動能力が高まると思うか？」という問いに対し、「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した保護者が減少した。子どもの運動能力向上のためには、運動遊びが重要であるという考え方が浸透してきている。



【日常的に運動に親しみ、運動を継続して実践する子供を育む】

体を動かすことを心地よく感じられるような遊びを継続して実践していく

- 1 親子で体を動かす爽快感や心地よさを実感するとともにスキンシップを図ることができ、幼児が体を動かして遊ぶことの必要性に一定の理解を得た。
- 2 保護者にも幼い頃から一緒に体を動かす機会の習慣化を働きかけていくことが課題である。